

# 第1回 持続可能な交通安全施設等の整備の在り方に関する懇話会 議事概要

## 1 開催日時

令和元年7月24日（水） 14:00～16:00

## 2 開催場所

兵庫県警察本部別館902会議室

## 3 構成員等

### (1) 構成員

神戸大学名誉教授 小谷通泰（座長）

神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻准教授 織田澤利守

兵庫県トラック協会参事 村尾芳和

兵庫県交通安全協会常務理事 中林好弘

兵庫県教育委員会事務局体育保健課主任指導主事兼主幹 岩木秀諭

兵庫県企画県民部ビジョン局ビジョン課長 木南晴太

兵庫県県土整備部土木局道路保全課長 山田弘（代理同課主幹 津田知宏）

神戸市都市局計画部公共交通課交通支援担当課長 畑田典子

### (2) 事務局

兵庫県警察本部交通部交通規制課

## 4 議事進行

### (1) 開会

※事務局より開会を宣言

※兵庫県警察本部交通部長より挨拶

### (2) 構成員紹介

※事務局より構成員等を紹介

### (3) 持続可能な交通安全施設等の整備の在り方に関する懇話会開催要綱について

※当懇話会開催要綱について、事務局から説明

※兵庫県警察本部交通部長より座長として小谷構成員を推薦し、構成員からの承認を得た。

### (4) 議題

#### ア 事務局等説明

「兵庫の人口動態と将来見通しについて」を木南構成員が、「県下の交通情勢について」及び「交通安全施設等の現状等について」を事務局から説明

#### イ 各構成員からの主な意見

##### (ア) 兵庫の人口動態と将来見通しについて

- ・人口が減るということで財政状況もかなり厳しい状況になるのではないかと。
- ・国は思った以上に税収を見込んでいる。しかし、社会保障関係費等で歳出

も着実に増えていくと考えられる。

- ・出生率の関係から郡部で出生率が高く、都市部で低くなる要因は、単身で働きたい人が都市部に多いためであると一般的には言われている。
- ・東京圏への人口移動については、就職時点での転出が多いと考えられることから、就労対策が大事になると考えられる。
- ・県内では、神戸市への人口移動が多いのではないか。
- ・階層性をもって、より中心的な都市へ人が吸い上げられているのではないか。

#### (イ) 県下の交通情勢について

- ・人口10万人当たりの死者数は、淡路、但馬で多い。
- ・但馬、淡路の人身事故件数をみると、高齢者が30%を占めているが、そもそも人口年齢構成と比較するとどうなのか、公共交通の整備状況を踏まえて高齢ドライバーが多いのか、幹線道路の横断時の事故なのか等、地域ごとの傾向を捉えて、その要因を考察すべきではないか。
- ・但馬、淡路の人身事故件数は、10万人当たりの死者数が多いことから、事故の特性（違反種別等）を把握することが交通安全施設の管理上必要ではないか。

#### (ウ) 交通安全施設等の現状等について

- ・当県は震災からの復旧復興のために、膨大な公共投資を行ってきており、これが他の自治体とは異なり財政的に大きな負担となってきた。行政改革が始まり公共投資に関して厳しい姿勢で臨んでおり、信号機だけではなく社会資本整備全体において、他の自治体とは周回遅れになっているのではないか。
- ・信号機の数減少させれば、更新や維持管理のための整備費・維持費も減少させることができるのではないか。
- ・信号灯器をLEDにすることにより、維持費の削減に繋がるのではないか。
- ・信号機を今後どのように整備していくのか、将来の予算の増減を踏まえ将来ビジョンが必要ではないか。
- ・信号機の設置基準に適合しないものを反映したうえで、平準化を考えると良いのではないか。
- ・信号機は、一度設置されると長期間に渡って、人の行動を強制的に制限するものとなるので、まち作りを考える場合、信号機の設置は最終手段だと思っている。長期的な話だが、県市町がまちの構造を考える時点から、高齢者が車と交差しないで歩ける等の安全を実感することができるような仕組みを議論すべきではないか。
- ・必要な予算で必要な整備を行うためには、施設の総数管理をすることが不可欠である。県民の方に納得していただくことが大事であるが、交通量に応じて、十分に安全が確保できる根拠や、安全教育の在り方など、施設の廃止に伴うプログラム作りが必要ではないか。
- ・信号機撤去には合意形成が問題になってくるので、そこをどうするのかと

いう議論が必要ではないか。

- 合意形成は非常に難しい。総論賛成・各論反対といったように、信号機を減らすことに理解はするものの、近隣の信号機は撤去しないでほしいというような考え方の人が多いと思う。
- 廃止にかかるプログラムを考えるうえで、信号機の撤去に対する代替策については、道路管理者等の関係者との調整を図っていただきたい。また、プログラムの中に一時停止規制の実施や路面標示の設置などの具体策を入れないと次の段階には進めないのではないか。

**(5) 閉会**

※事務局より閉会を宣言

以上